

豊潤の里 たより

「ゴミがゴミを呼ぶ」仕組みを断ち切ろう

2018年12月25日、「7,660人分の反対署名」を、木谷自治協議会・産廃処理施設反対実行委員会が、広島県西部東厚生環境事務所に提出しました。赤崎地区からスタートした署名活動は、親戚・友人・知人へとその輪は広がり、中には東京や大阪からのものや、地元小学生のものまで集まりました。一筆一筆に込められた思いの重たさを、肌でひしひしと感じました。しかしながら栗本ホールディングス(栗本HD)の担当者は、

「反対署名は、知人や親戚に頼まれてやっているだけ」。

と言い切りました。みなさんは、この言葉をどう思われますか。私たちはこの言葉を一生忘れません。いやそれ以上に、栗本HDという企業の体質を垣間見た思いでした。

「ゴミが、ゴミを呼ぶ」という言葉があります。不法投棄されたゴミは、更なる不法投棄ゴミを呼び込み増大していくということです。これは最終処分場についても同じことがいえます。半世紀前、赤崎地区に安芸津町のし尿処理施設が建設されました。それ以降、令和3(2021)年まで竹原・東広島市内のゴミ・し尿の公営最終処分場としての役割を担ってきました。町内及び近隣市町から出たゴミの「受け皿」として果たしてきた役割はとても大きく、とてつもなく長いゴミとの歴史があるのです。

8年前から、民間企業である栗本HDが最終処分場を建設しようとしています。赤崎地区の歴史はまさに「ゴミが、ゴミを呼ぶ」仕組みの中に組み込まれているのです。地元のゴミは致し方ないところもありましたが、今回は都市部から出されたゴミ。都会(企業)のゴミ処理のために、なぜこの赤崎地区にゴミが集められ、捨てられないといけないのか。

栗本HDは地域貢献と称して「協力金」の準備があると、一部の地権者に説明したそうです。地域貢献ためのお金といえば聞こえはいいですが、そもそも「協力金」は、地域への負担を強いる(苦しみを受け入れさせる)代わりに、企業が地域にお金を出す意味合いのものです。企業はタダでは大金を出しません。では一体地域に、「どんな負担を強いるのか」「どんな苦しみを受け入れさせるのか」、そこが気味の悪いところです。

以前、「長年し尿やゴミが運び込まれた地域の人の気持ちがわかりますか」と、栗本HD担当者に尋ねたことがあります。

「わかりません!」

と、きっぱり答えました。木谷赤崎地区は、近隣のゴミの受け皿としての役目を十分果たしてきたのです。企業の利益のために、都市部のゴミを持ち込ませるわけにはいきません。



＜赤崎海岸から見た夕焼け＞

昔の遊びを通して地域の人と交流

木谷小の子どもたちが地域の人たちと昔の遊びや遊び道具づくりを通じて交流する「ものづくりふれあい集会」が、オープンスクールとして1月23日と29日の2回に分けて開かれました。



1・2年生：昔の遊び。地域の人たちから教わりながら、屋外の運動場ではコマまわし、屋内の体育館ではお手玉・おじゃみ・羽根つき・けん玉をすべて体験しました。



3年生：紙玉鉄砲づくり。ノコギリやナイフを使って上手に作り、ティッシュペーパーを丸めた弾を込めて、的当て競争に興じました。



4年生：竹とんぼづくり。材料の竹の削り方が成否を左右。体育館内では天井を目指して高く上がる竹とんぼが数多く見られました。



5年生：凧づくり。自分で描いた絵の上に、細い竹ひごを貼り付け骨組みを作りました。軽くてよく揚がる凧ができました。



6年生：風車づくり。教わりながら作っても難しいのが風車。精神を集中して規則正しく組んでやっと完成。運動場を走りながら回しました。

木谷自治協主催（防災安全部会）

地震・津波災害に備えて ～自主防災訓練～

いつ発生するか分からない地震、津波、火災などの災害。その時に備える自主防災訓練が2月16日に実施され、324名が参加しました。津波を想定した避難訓練では、サイレンの音を合図に地域内9か所の指定場所に集合。その前後に関連行事が行われました。



日赤防災センターによる小学生向け防災授業



消防団員とともに高台に避難する小学生たち



小学生代表6名が水消火器を使って初期消火訓練



初期消火の効果がなければ消防団の出番

地域センター 主催講座

セルフケア講座とクラフトテープ講座



セルフケア講座（講師：浅田真紀子さん）

令和6年4月～令和7年3月で10回開催

自分自身の心や体の健康に関心を持たない人はいないでしょう。インドの伝統的健康法のマルマ（東洋医学のツボに相当）やヨガを取り入れ、快眠・血液やリンパの循環向上などが期待される講座でした。



クラフトテープ講座（講師：出口加代子さん）

2月25日、3月4日・11日の3回開催

かごを自分で作って買い物に行ったり、小物入れにしたいと思ったりしたことはありませんか。そんな願いを叶えてくれる講座が開かれました。受講生の一人は後日、「ちょっと難しかったけれど、皆がんばりました。出来上がった時うれしくて、それからいつも持ち歩いています」と話していました。

伝統行事 神明まつり

木谷地域で毎年節分のころ行われる伝統ある神明まつり。今年も地区ごとに趣向を凝らして製作。勢いよく昇る炎に無病息災、五穀豊穡などの願いを託しました。



1月26日 赤崎地区



2月2日 郷地区



2月9日 西之谷地区

部会活動紹介

環境衛生部会



3/1 ふるさとの川をきれいに
木谷郷川の美観を損ねているゴミ。有志
6名が河口から約1.5km 上流まで川の中
を歩いてゴミを収集しました。

<下之谷集落協定組合>

福祉生活部会



3/20 敬老と見守りの「友愛訪問」
77歳以上の高齢者宅を、区長さんがお菓
子を持って訪問しました。今回の対象者
は292名でした。

<自治協・区長・木谷地区社協 蛟龍>

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口	男	女
令和7年(2025)2月末現在	656	1377	670	707
令和6年(2024)2月末との比較	-30	-52	-27	-25